

・日本のバイオマスボイラー
設置運営の現状と課題
～熱利用拡大のための要点～

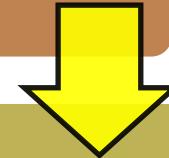
ETA社・SCHNEID社 代理店
ソーラーワールド株式会社
代表取締役 武内賢二

1. 日本の現状

再エネ部門全体の中で“熱”分野が停滞



ボイラー本体中心の設置が多い



せっかくの成功事例が再現されにくい



他ユーザーの
運営が
分からぬ

運営データが限定的で蓄積にな
ない。

2. 最大の課題: 熱需要設計と情報共有

01

熱需要の見える化が弱い=数値化・データの蓄積

02

設計では
熱負荷 + 制御 + 断熱で
設計

03

過去事例の
共有



3. 制御システムの重要性

- ・ インバーター制御のポンプ
- ・ 三方弁による温度制御
- ・ バッファータンク容量の最適化
- ・ ボイラー単体ではなく“システム全体”が性能を決める

4. 運用面での課題

01

運営データを検証する場面が少ない＝ユーザーの運営マニュアルが共有しづらい

02

過去事例の良い点・悪い点が共有しづらい

03

メンテナンスの運営が共有しづらい

5. 燃料品質とサプライチェーン

- ・ 含水率・粒度の基準が曖昧
- ・ 地域での乾燥設備や供給体制が不足
- ・ 欧州は燃料規格が統一(例:ENplus)

6. 欧州との比較(要点)

使用データの蓄積と分析・改善が可能

設計・制御・断熱が標準化

運用は地域で

熱需要の測定と需要家教育が徹底

7. 日本で進めるために必要なこと

熱需要の測定
と可視化・データの蓄積

システム設計
の標準化(欧州並み)

ユーザー意見
の共有

地域燃料供給
体制の構築

結論

バイオマスボイラーは総合のシステムとして構築・メーカーとして情報開示

欧洲の成功要因を日本でも構築する

需要側のデータ蓄積・分析・改善

バイオマス熱利用の勉強会の実施

運営の状況をユーザーと情報共有